

第30回高齢者相互支援活動研修会開催要綱

1 目的

超高齢社会となり、65歳以上の高齢人口1人に対する生産年齢人口は、50年前には9.⁸人であったのが、2015年には2.³人になり、30年後の推計では1.⁴人と、その比率は今後も減少していく中、住み慣れた地域で高齢者同士が支え合って生活していくことが不可欠となっている。

そこで、これまでの友愛訪問に加え、高齢者同士が気軽に寄り合える場をつくることにより、そこでの何気ない会話から近隣への気遣い・共感が生まれ互助が始まる、そんな活動を老人クラブが実践するための考え方・やり方について学ぶために開催する。

2 主催

公益財団法人愛知県老人クラブ連合会

3 開催方法

インターネット(ZOOM)開催を基本とする

※各市町村老連会議室等またはクラブ会員を1拠点として接続

※ZOOM以外に愛知県社会福祉会館5階第一研修室での参加も一部可とする

※新型コロナ感染状況が低下見込みとなれば、会場参加主体とする場合がある

4 日時

令和4年2月16日(水)

5 研修日程

12:30～ ZOOM入室受付

13:10 開会・挨拶

13:15～ 高齢者相互支援事業モデル指定老連(令和元年・2年度)活動報告
大口町老人クラブ連合会理事・さつきちとせ会元会長 いがみひでたか 伊神英臣 氏
大口町老人クラブ連合会 こぎたなこ 河北和みの会会長 やまぐちもとお 山口元生 氏

13:45～ 講演
「地域の助け合いは いつでも だれでも行ける 居場所づくりから」
～何をしてもいい、したいことができる、居心地がいい～
公益財団法人さわやか福祉財団 理事 つるやまよしこ 鶴山芳子 氏

14:35～ グループ討議(ZOOMブレイクアウトルームにより)

15:05～ 休憩

15:15～ グループ発表

15:45～ 講師講評・質疑……愛知県内老人クラブ運営サロン調査結果も踏まえ

16:00 閉会

※16:01～ 参加者同士のZOOMでのコミュニケーションタイム(自由意見交換)

6 受講対象者

県内老人クラブ会員及び老人クラブ担当職員など(ZOOM定員特になし)

7 新型コロナウイルス感染防止策……県老連・市町村老連等での会場受講の場合

- ・受付での検温、手指の消毒、体調確認
- ・マスクの常時着用
- ・窓、扉の常時開放換気(防寒服室内着用任意)
- ・会議机は2人掛けで前後間隔も極力空け、会場定員の1/2の参加者に限定

1. ねらい

■社会の動向：超高齢化・少子化・核家族化……… 近所同士の助け合いのしくみが不可欠に

【人口減少】1億人 (2050年) ← 1.3億人 (2015年)

【高齢化率上昇】1人/1.4人(同上) ← 1人/2.3人(同上)、9.8人(1970年)

65歳以上の高齢者を、生産年齢人口15-64歳で、社会的に支えることが困難

【高齢者世帯多い】全世帯の30% (2019年) = 65歳以上の単独世帯か、どちらかが65歳以上の夫婦のみ世帯

■通いの場が助け合いの基に

○地域の身近な助け合い

日頃の生活の中で、ほどよい距離を保ちながら、その地域に合った形での活動、声かけや見守り、ゴミ出し、電球の取り換えなど、日常のちょっとした助け合いをお互いさまで行える仕組みをつくっていくことが、地域で安心して心豊かに暮らせる基となります。

○ふれあいの居場所 = 助け合いの基礎となる絆を生み出す

人間関係が希薄になり、地域で孤立する人も増えています。今の時代は、ほとんどの地域で意識的な集まりをつくっていくことが必要となってきました。

居場所は、地域に住む「多世代」の人々が自由に参加する場所です。主体的な人との交わりによって生きる意欲が高まり、絆(共感)が生まれ、それが様々な助け合いに発展していきます。固定した場所を使わずに、パラソルひとつ、ベンチひとつからでも始められます。

……「新地域支援事業 みんなで創ろう 助け合い社会」さわやか福祉財団より

■老人クラブによる通いの場

地域社会で必要とされる役割を担う→老人クラブの認識度・評価の高まり→クラブ活性化にも

2. 研修会開催の流れ

(1) 老人クラブが設置運営するサロン(通いの場)の現状と課題のアンケート実施

①「居場所ガイドブック」をすべてのクラブにweb掲載情報提供

→未実施クラブへは情報提供でサロンへの関心を、実施クラブには課題抽出のため

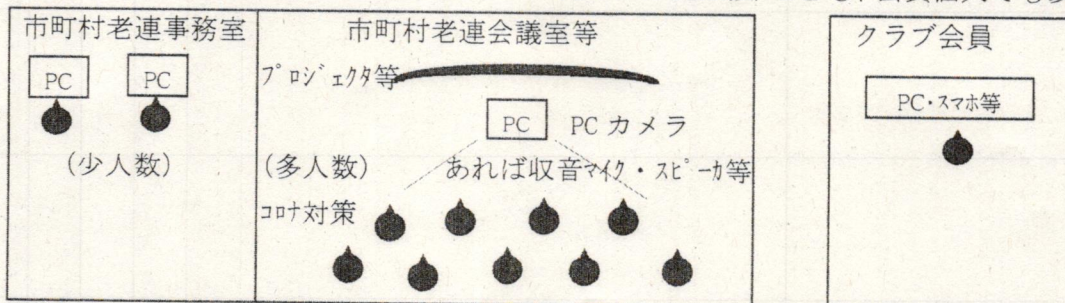
②全単位クラブにアンケート実施 ※困難な場合は今回は可能な数とし別の機会に残回収クラブ会員が開設運営しているサロン等を含む

③市町村老連で回収済アンケートと参加申込書を期限(12.22)までに県老連へ郵送等で提出
アンケートは研修用に集計する必要があるため、回収途中でも一旦期限までに提出し、残りは後日提出

④アンケートを県老連で1月中に取りまとめ、講師・市町村老連に提供

(2) 研修会 ZOOM 参加形態

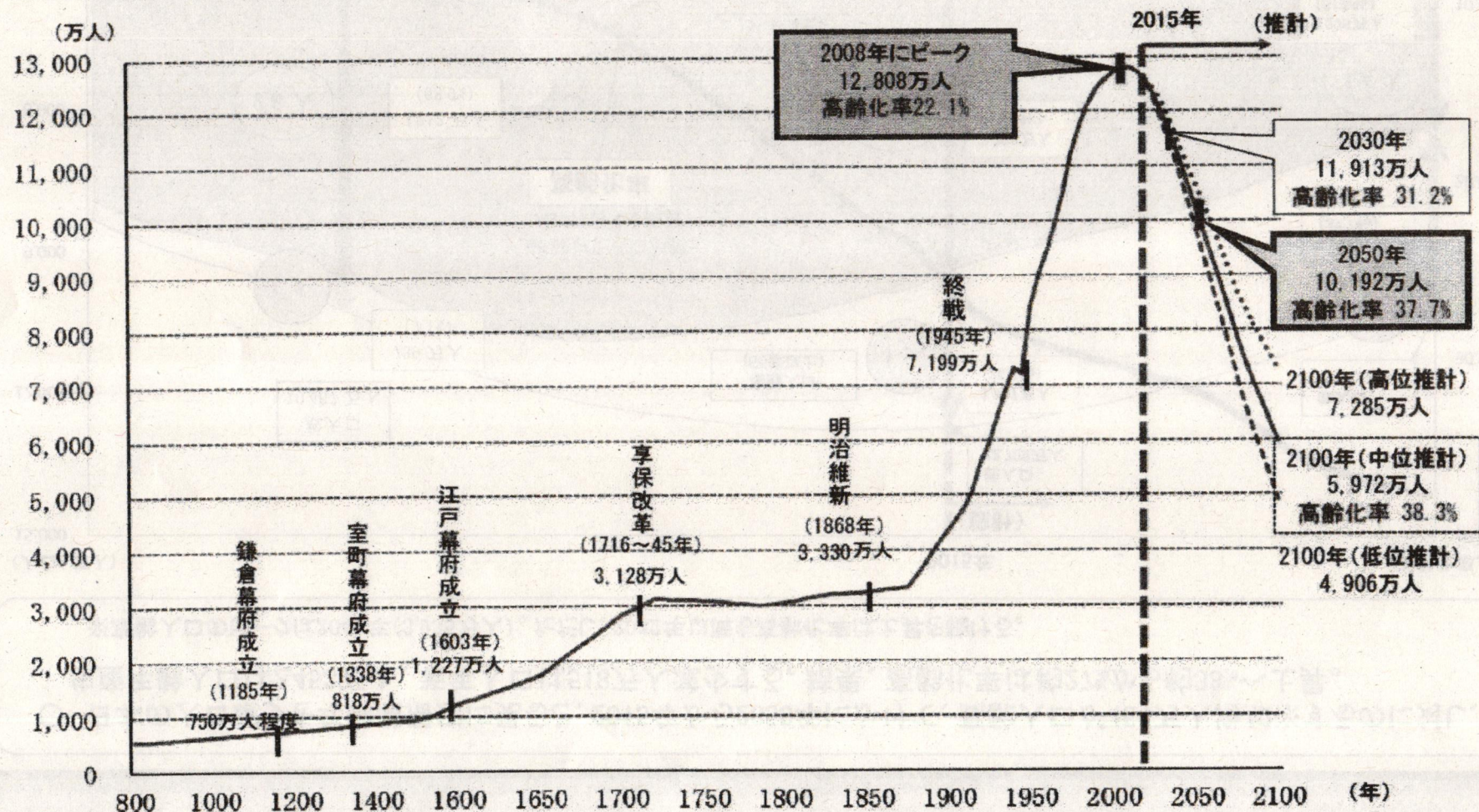
市町村単位で会議室等で参加する(グループ化では1拠点扱)ことも、会員個人でも参加できる



日本の総人口は2050年には約1億人へ減少

R3.3.31 国土交通省「国土の長期展望専門委員会
最終とりまとめの骨子案資料

○ 日本の総人口は、2008年をピークに減少傾向にあり、2050年には約1億人にまで減少する見込み。

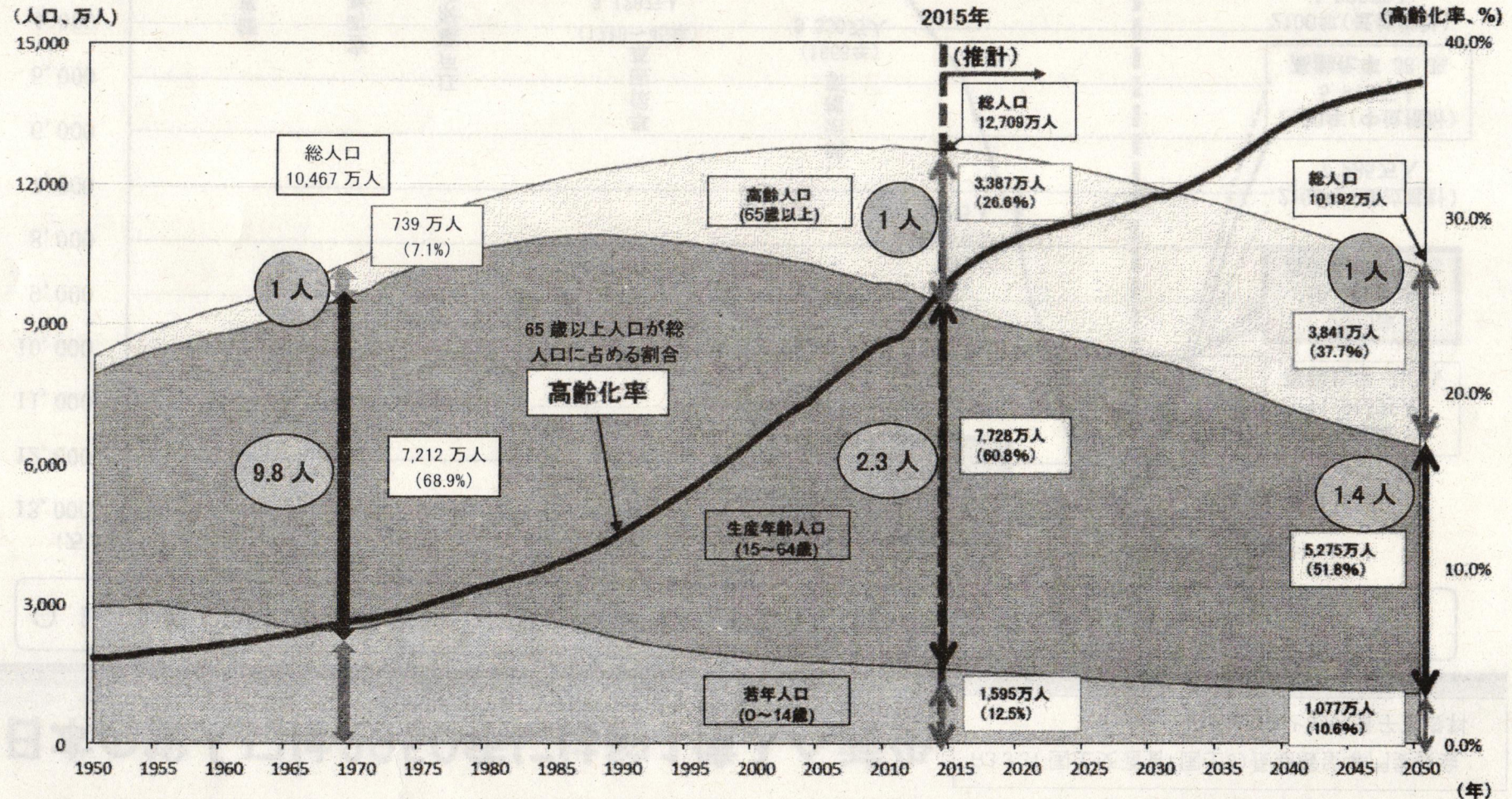


(出典) 1920年までは、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)、1920年からは総務省「国勢調査」。なお、総人口のピーク(2008年)に係る確認には、総務省「人口推計年報」及び「平成17年及び22年国勢調査結果による補間補正人口」を用いた。2020年からは 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」を基に作成。

生産年齢人口・若年人口は減少する一方、高齢人口は増加

○ 日本の人口減少を年齢階層別に見ると、2015年から2050年にかけて、高齢人口が454万人増加※するのに対し、生産年齢人口は2,453万人、若年人口は518万人減少する。結果、高齢化率は約27%から約38%へ上昇。

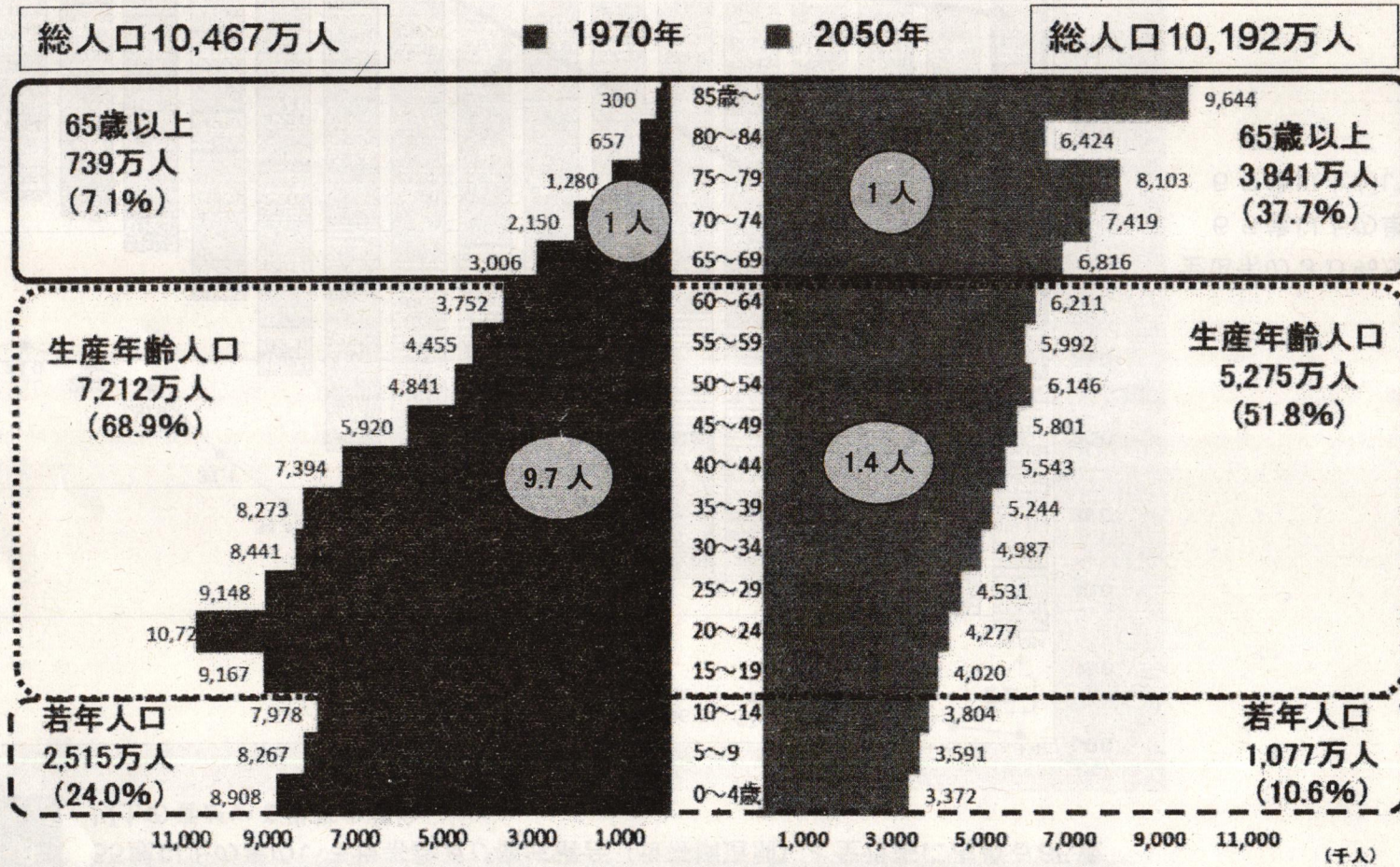
※高齢人口のピークは2042年(3,935万人)。ただし、2042年以降も高齢化率は上昇を続ける。



(出典)総務省「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」をもとに、国土交通省国土政策局作成

約1億人の国土でも、年齢構成が大きく変化

- 2050年の日本の総人口は1970年時とほぼ同じく約1億人であるが、その年齢構成は大きく異なっている。
- 1970年の65歳以上の人口は739万人(7.1%)だが、2050年は3,841万人(37.7%)と大幅に高齢化している。

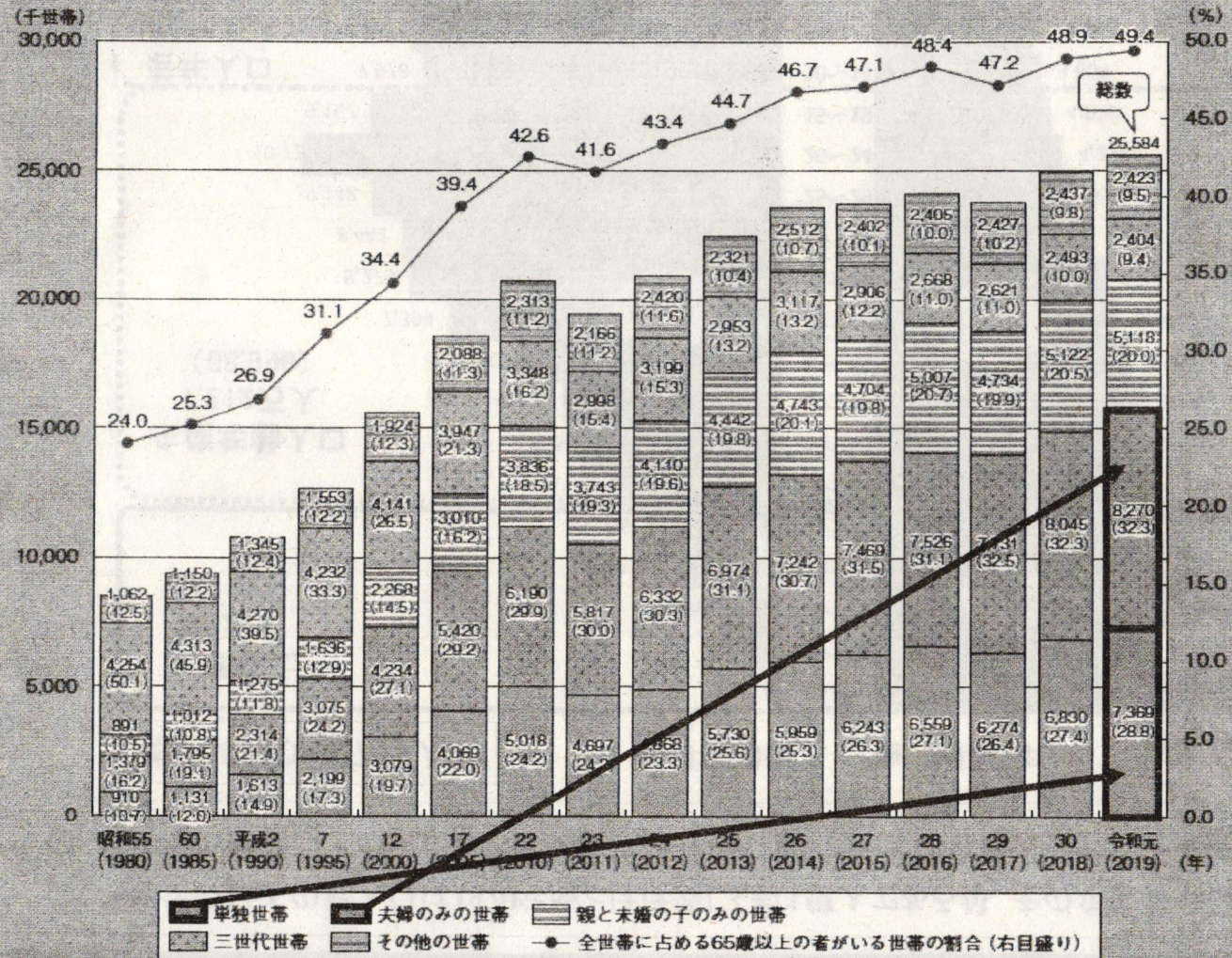


10-7

出典) 1970年は総務省「国勢調査」

2050年は国立社会保障・人口問題研究所「将来人口推計(平成29年1月推計)」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

図1-1-8 65歳以上の者のいる世帯数及び構成割合（世帯構造別）と全世帯に占める65歳以上の者がいる世帯の割合



全世帯の30%が
65歳以上の単独世帯か
65歳以上がいる夫婦のみの世帯

資料：昭和60年以前の数値は厚生省「厚生行政基礎調査」、昭和61年以降の数値は厚生労働省「国民生活基礎調査」による
 (注1) 平成7年の数値は兵庫県を除いたもの、平成23年の数値は岩手県、宮城県及び福島県を除いたもの、平成28年の数値は熊本県を除いたものである。
 (注2) () 内の数字は、65歳以上の者のいる世帯総数に占める割合 (%)
 (注3) 四捨五入のため合計は必ずしも一致しない。

老人クラブ・会員 が運営主体となっている「サロン・通いの場」アンケート票

※webでの「～いつでも誰でも行ける場所を広げよう！～『居場所ガイドブック』」（公益財団法人 さわやか福祉財団 2019年1月作成、50ページ）が、活動の参考になります。QRコードで見れます⇒
 <検索>=同財団>参加のお誘い>生活支援・助け合い・居場所>居場所>もっとくわしく知りたい方へ 冊子・動画のご案内
<https://www.sawayakazaidan.or.jp/CMS2/wp-content/uploads/2021/08/ibasho-guidebook.pdf>



1. 開催状況 …… コロナ以前の通常活動状況の記入でも結構です

(1) 開設 (サロン名)

(いつから) 昭 平 令 年 月

(だれが) (所属クラブ名・職)

(なぜ(目的きっかけ))

(だれと) 運営仲間 人

(どこで) (1)個人宅 (2)空き家 (3)公民館・自治会館・集会所 (4)公園 (5)農園

(6)店舗・企業の空きスペース・空き店舗 (7)学校・廃校 (8)医療機関の空きスペース

(9)介護関係施設事業所の空きスペース (10)他 _____

(来てもらう人) ・だれでも OK ・子供も OK

・その他 ()

(やる頻度) 回 / 月・週

(2) 活動 ((1)コロナ以前の通常活動 (2)コロナ禍での活動) ← ○つける

区分：①体操(運動) ②会食 ③茶話会 ④認知症予防(脳トレ、ゲーム、コグニサイズ等) ⑤趣味活動 ⑥農作業 ⑦生涯学習

⑧ボランティア活動 ⑨就労的活動(贈呈品・販売品製作、助け合い軽作業等) ⑩多世代・地域住民交流⑪他

区分	やっていること など	頻度	参加人数	運営人数	利用料
		/			
		/			
		/			
		/			
		/			
		/			
		/			
		/			
		/			
		/			

※活動項目の欄が足りない場合は、任意の別紙に追加記入してください。

2. 運営上の課題 ……全項目でなくても、貴運営サロンでの課題項目(複数可)についてのみご記入ください。

- (1) 運営人員
- (2) 場 所
- (3) も の
- (4) お 金
- (5) 情 報
- (6) 他機関連携・支援
- (7) コロナ対応
- (8) その他

3. サロン・通いの場 運営上のことで 知りたいこと、聞きたいこと

老人クラブ・会員が運営主体となっている「サロン・通いの場」アンケート票

※webでの「～いつでも誰でも行ける場所を広げよう！～『居場所ガイドブック』」（公益財団法人さわやか福祉財団2019年1月作成、50ページ）が、活動の参考になります。QRコードで見れます⇒
 <検索>=同財団>参加のお誘い>生活支援・助け合い・居場所>居場所>もっとくわしく知りたい方へ 冊子・動画のご案内
<https://www.sawayakazaidan.or.jp/CMS2/wp-content/uploads/2021/08/ibasho-guidebook.pdf>



1. 開催状況 …… コロナ以前の通常活動状況の記入でも結構です

(1) 開設 (サロン名) **あいちいきいきサロン**
 (いつから) 昭**平**令**28**年**5**月
 (だれが) **愛知はなこ** (所属クラブ名・職) **みなみ長寿会 女性部会長**
 (なぜ(目的きっかけ)) **気軽に近隣同士が集い、張り合いを感じせる場を設けて地域の絆を強める**

ことが必要と考え、自主的に立ち上げた / 行政機関に頼まれたため / 空き家が活用できたため

(だれと) 運営仲間 **5**人
 (どこで) (1)個人宅 (2)空き家 **(3)公民館・自治会館・集会所** (4)公園 (5)農園
 (6)店舗・企業の空きスペース・空き店舗 (7)学校・廃校 (8)医療機関の空きスペース
 (9)介護関係施設事業所の空きスペース (10)他 _____
 (来てもらう人) ・だれでもOK ・子供もOK

・その他(**老人クラブ会員とその友達**)

(やる頻度) **2**回/月**週**

(2) 活動 **(1)コロナ以前の通常活動** (2)コロナ禍での活動 ← ○つける

区分：①体操(運動) ②会食 ③茶話会 ④認知症予防(脳トレ、ゲーム、コグニサイズ等) ⑤趣味活動 ⑥農作業 ⑦生涯学習
 ⑧ボランティア活動 ⑨就労的活動(贈呈品・販売品製作、助け合い軽作業等) ⑩多世代・地域住民交流 ⑪他

区分	やっていること など	頻度	参加人数	運営人数	利用料
①	健康体操会	2回/月	10人	3人	100円
②	昼食会	1回/月	20人	7人	500円
⑩	子供たちに折り紙を教える	1回/2月	10人	5人	なし
③	気軽に集まって話し お茶する	1回/週	10人	2人	100円
⑤	小物づくり / 囲碁	1回/週	8人	2人	なし

※活動項目の欄が足りない場合は、任意の別紙に追加記入してください。

2. 運営上の課題 ……全項目でなくても、貴運営サロンでの課題項目(複数可)についてのみご記入ください。

- (1)運営人員 **利用者みんなで手伝う雰囲気になりたいが、どうしてもやる人が限られ、負担になっている**
- (2)場 所
- (3)も の
- (4)お 金 **居場所の改装が必要だが、費用をどう集めるかが問題**
- (5)情 報 **よいたくさんの人に来てもらいたい、声かけする人の個人情報が入りにくい**
- (6)他機関連携・支援
- (7)コロナ対応
- (8)その他

3. サロン・通いの場 運営上のことで 知りたいこと、聞きたいこと

- ・運営費の足しにでき、かつ参加しやすい利用者負担料の設定の参考のため、利用料の実態情報が知りたい
- ・増えている空き家を、くつろげる場所として利用するための、法的・費用的な情報がほしい